



+R 未来を生みだす人になる。
立命館大学
RITSUMEIKAN

立命化友会ニュース

= 第1号 =

発行日: 2012年11月1日

編集: 立命化友会事務局

編集責任者: 金川義孝

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学生命科学部・

薬学部事務室内

TEL.077-561-2658

FAX.077-561-2659

e-mail:kayukai@st.ritsumei.ac.jp

「立命化友会」発足

会長 北尾舒彦

(昭和三十九年卒)



友会の初代会長に就任致すこととなりました。

微力ではございますが、過去の同窓会の流れを継承し、新たな同

窓会の発展に尽力してまいりたいと存じますので、皆様のご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

また、設立総会では、会則や平成二十三年度の事業計画・予算案なども決定されました。

会則は、応化会とほとんど同じです。役員及び平成二十四年度の事業計画・予算案について、別途掲載致しますので、御覧下さい。

立命化友会の活動に関心を持つています。

また、当会の会員数は一万人を越えていますが、全国に住んでおられるので、インターネットをもつと活用して、ホームページによる

広報活動や住所変更手続きの可能性も検討したいと考えています。

現在は若年層の方々の活動への参加が少ないので、何らかの有効な方策を模索中であります。

次いで、役員の選出が行なわれて、皆様のご推挙により立命化友会が決定されました。

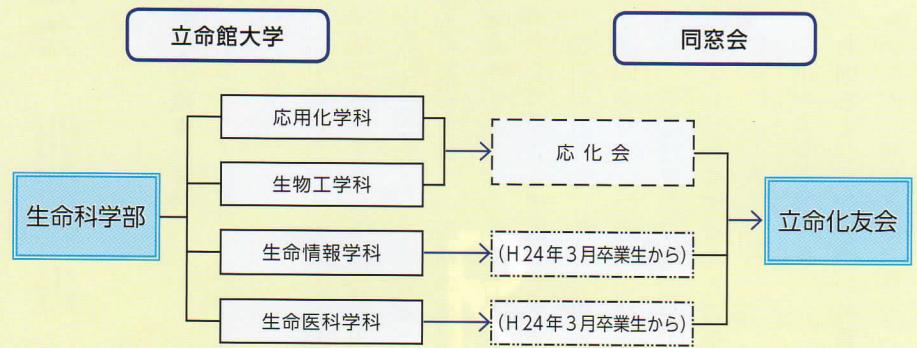
- 企画運営委員会

- ニュース編集委員会
- 支部活動
- 関東・東海
- 中国・四国
- 立命化友会ニュース発行
- セミナーの開催
- 健康セミナー(二月)
- 同好会活動
- ゴルフ・ハイキング
- 釣り天狗クラブ
- 温泉研究会

- (同好会活動については、広報のみ当会事務局が行ない、各事業の費用はすべて参加者の負担となっています。)
- 同好会活動
- セミナーの開催
- 健康セミナー(二月)
- 立命化友会ニュース発行

今回の立命化友会の設立を機とに役員になっていたとき、過去の活動の良い所は残しつつ、自由な発想で新しい企画が実施出来れば良いと願っています。

最後に立命化友会の皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。



介があり承認された。名譽会員

については旧応化会の名譽会員で引き継ぎつつ今後常任幹事会と会計幹事は今後事務局で学内会員を中心に検討することとした。

なおこれまで応化会で設置されていた名簿管理委員会と地域別活動委員会については委員会としては設置せずに、状況を見て個別対応することとした。企画運営委員会、ニュース編集委員会は設置することとした。

四、事業計画・予算について

事業計画案および予算案について説明があり了承された。また会費は終身会費を一万円とすることとした。旧応化会三支部については各支部で判断いただいて継続することとした。

記念式典

総会終了後同会場で記念式典が開催された。まず、初代会長に就任された北尾舒彦氏より挨拶があり、続いて校友会本部副会長西村隆氏と薬学部長今村信孝氏より祝辞を頂いた。また校友会他からの祝電があり紹介の上式典の前半を終了した。

記念講演会

引き続き同会場で、立命化友会

会員でもある生命科学部長今中忠行氏により「第四十六次南極地域観測隊に参加して」という演題で講演が行われた。演題通り今中氏が実際に南極に滞在された時、また南極へ行くまでの内地訓練や「しらせ」での生活など、観測隊員としての貴重な体験と南極での微生物についてお話し頂き、参加者一同興味深く拝聴した。

懇親会



設立総会記念講演

第四十六次南極地域観測隊に

参加して

生物工学科 今 中 忠 行

一・はじめに

二〇〇四年十一月二十八日に成田を発ちオーストラリアのシドニー、パースを経由して、十二月三日に砕氷艦「しらせ」（写真①）が南極へ向けフリーマントルを出航した。しらせ艦内では往路で「じらせ大学」、耐寒訓練などの各種行事があり、復路では「南極大学」や停船観測が行われた。しらせでは海水の風呂や激しい揺れなどもあつたが、無事に乗り越えることができた。私も生物班員として約二ヶ月に及ぶ野外活動を行うとともに、二つの洋上大学で学長を務めシドニーへ帰還するまで楽しい経験をしてきた。その中で面白い



① 砕氷艦「しらせ」

二・南極の気象

南極では冰点下の風が吹くことは日常である。通常、手袋をしていれば問題はないのだが、細かい手作業が必要な時は手袋をはずすことになる。寒い、冷たいを通り

と思つた事柄（気象や研究）について簡単に述べてみたい。

超して痛いと感じる。昭和基地と沿岸部の夏はこの程度だが、ドームふじではマイナス四〇度からマイナス八〇度であり、ここでは常に凍傷の危険に曝されるという。サングラスをかけないと、たどろくに雪目になり目をやられる。実際、池の中の藻類でも表面は紫外線の影響で死滅して菌殻を形成し、その裏に緑色の元気な藻類が生えているほどである。また気圧も平均して九八〇ヘクトパスカルと低い。また砂塵の脅威も予想以上にすごいと感じた。ヘリコプターの離発着時に巻き上がる砂塵はテントや鞄の中へも大量に入り込んでくる。要するに空気に乗つて侵入するのだ。南極には雲母が多く存在しているが、この微小片が空気中に浮遊し太陽の光を浴びてキラキラと輝いている。これがパソコンやデジタルカメラの大敵になつてゐる。実際にカメラが動しなくなつた例もあつた。私はこれらを密封式のプラスチック袋に入れて携帯しているほどである。もう一つ大きな特徴は白夜であろう。午前〇時でも太陽が沈まない世界はやはり特殊環境である。

情報が出されるようになったがこれは夏の終わりと秋の到来を感じさせた。二月に入り暗夜の時期になるとオーロラが現れる。オーロラはギリシャ神話で夜明けを告げる女神だそうだが、その色合いも多様である。緑色が濃いものから白色がかつた緑もあるし、粒子のエネルギーが強くなると赤いオーロラも出てくることがある。その形も変化に富んでいるが、典型的なものは薄いレースのカーテンが風にゆられているように見える。また南極の天候は時として急変することがある。特に野外では予備食料の準備やテント、寝袋は欠かせないが、気象予報の重要性と有難さも強調しておきたい。

三・南極での野外研究

野外では最初にルンドボーケスヘッタへ降り立った。雪と氷の世界だが、陸地は岩石が露出している（写真②）。日本では植物由来の土が地面を覆っているが、ここ南極では植物が生育していないので地肌が露出しているのだ。一見して岩の色や、岩石の混合具合が分かる。まさに地学研究の最適地であるといえよう。また山歩きでゴム長靴を履いていたのだが、小さな



② 大自然

砂や泥が無いために、急な斜面でも樂々と歩くことができた。またスカルブスネスでは特に岩石の風化が目立ち、造形芸術のような自然の岩があちこちに散らばっている。温度変化でひびが入り、水、風、砂などで大きな穴や空洞ができるのであろう。もう一つ特徴をあげれば地磁気であろう。南極点とS極が一致していないため、コンパスの使用では一定の補正が必要である。ちなみに今年の昭和基地周辺では四十九度の補正がなされた。この磁力を感知する走磁性細菌も興味ある研究対象である。

今度の旅で、地球は世界と繋がる南極には多様な湖沼があるのも特徴の一つだろう。水床が溶けてできた淡水湖もあれば、以前は海であったが今は湖となつた塩湖もある。塩類濃度も低塩、中塩、に加えて飽和状態の高塩湖もある。またそれぞれの環境に適した微生物も探索してみたいものである。沢山の湖で湖底の試料を円筒状の装置で採取した。最大四メートル近くまでコアを採取できた例もあるが、きれいな縞模様が見られた。大昔の堆積物ほど底深く眠つてたのであるから、湖底は歴史博物館であると言うこともできる。また湖にはラン藻やコケが多く見受けられた。特にスカルブスネスのある池ではコケボウズ（コケの大きな固まり）が湖底で美しい別世界を形成していた。またラン藻の

り柔らかいということを実感した。白い岩石の隙間にも緑色のラン藻が元気に生きているのだが、これが強い紫外線を避けながら弱い光を吸収し、空気中の水分と炭酸ガス、窒素を利用して生きている。一方、夏は鳥類の繁殖期でもあり、ペンギンの営巣地では三羽の子供を大切に育てている親が微笑ましい（写真③）。灰色の柔らか

四・おわりに

最後にヘリコプターの有用性について触れておきたい。我々は海上自衛艦しらせのヘリコプター二機と観測隊ヘリコプター（愛称リトルブルー）で人員や物資の輸送をして頂いた。滑走路が無くせまい場所でも前後左右に機動的に動くヘリコプターは南極でのエースである。これなくして野外観測はありえない。感謝の気持ちを添えて本原稿を終わりにしたいと思つた。



③ ペンギンの営巣地

（本稿は、設立総会記念講演の内容をまとめたものです。）

に力モメは人間を威嚇するように飛んで来て怖い位であつた。一方、海岸や湖岸でアザラシの死骸を多くましい生命力にも驚かされる。

海岸や湖岸でアザラシの死骸を多くましい生命力にも驚かされる。飛んで来て怖い位であつた。一方、

白血病からがんについて考える

生命科学部 生命医科学科

堀利行

みを進化させてきました。しかし、

A portrait photograph of Dr. Toshiyuki Yamamoto, a middle-aged man with short grey hair and glasses, wearing a suit and tie.

かんには胃癌や白血病などさまざまなもののがんは、調節を逸脱して増殖する個の異常細胞に由来することが分かつています。そのような細

胞が分裂を繰り返して大きな細胞集団となり周りの細胞や組織を圧迫し危害を加えるようになったものががんです。細胞が分裂を続けることは、生命誕生以来の生物の最も根源的な性質です。細菌のような単細胞生物でそのことは自明ですが、われわれ人間を含む多細胞生物でも、個体発生、組織の恒常性維持、そして生殖には細胞分裂が必須です。一方で、多細胞生物は、体全体の調和を保つために細胞の増殖を厳密に制御する仕組

がんは、年齢を重ねるにつれて発症頻度が高くなります。一九五〇年代にフィンランド生まれの統計学者Nordlingはがんの死亡率と年齢の間にべき乗則の関係があることを示し、ランダムなDNAの変異が蓄積することによつてがんが発症するという仮説を提唱しました。その後、一九七一年に米国の遺伝学者Knudsonは、稀な眼の腫瘍である網膜芽細胞腫について、ある遺伝子が両方の相同染色体で変異した場合に発

こします。Rbのような遺伝子は、がん抑制遺伝子と呼ばれ、多くの種類が知られていますが、いずれもがん遺伝子とは逆の作用、すなわち、細胞の増殖を抑制したり、細胞死（アポトーシス）を誘導したりします。

今日、がんが出来までのプロセスは次のように考えられています。まず一個の細胞のがん関連遺伝子（がん遺伝子またはがん抑制遺伝子）に変異が起り、そのクローン（一個の細胞由来の集団）

介しようと思います。この病気の特徴は、染色体転座により生じた BCR-ABL 融合遺伝子という一つのがん遺伝子が原因だということです。そのタンパク質産物がチロシンリン酸化酵素の活性をもち細胞のがん化過程において中心的な役割を果たしていることが明らかにされました。一九九〇年代にこの酵素の触媒ドメインの立体構造を解析しそこへの ATP の結合を阻害するいくつかの候補分子がデザインされました。そして、

いて原因となつてゐるシグナル伝達経路の異常を明らかにすることが、がん克服への近道であることを示していると思われます。

りえます。そうすると、無制限に増えようとする細胞本来の性質が露呈するのを避けることができません。何故がんが生じるかと言えば、ある種の遺伝子変異によつて单細胞生物以来の最も基本的な細胞のあり方に戻つてしまふからと考えられます。

性質を示し、一対の相同染色体のうち片方で発現するだけで細胞はがん化しやすくなります。それに対しても、一九八六年に単離された網膜芽細胞腫の原因遺伝子 Rb は、Knudson の予言通り劣性の性質を示し、両方の染色体で欠損または変異した場合に細胞のがん化を起

が蓄積した結果、その中で最も増殖が速く死に難いクローンが選ばれて最終的にがん病変を形成するに至るというものです。

介しようと思います。この病気の特徴は、染色体転座により生じた BCR-ABL 融合遺伝子という一つのがん遺伝子が原因だということです。そのタンパク質産物がチロシンリリン酸化酵素の活性をもち細胞のがん化過程において中心的な役割を果たしていることが明らかにされました。一九九〇年代にこの酵素の触媒ドメインの立体構造を解析しそこへの ATP の結合を阻害するいくつかの候補分子がデザインされました。そして、

いて原因となつてゐるシグナル伝達経路の異常を明らかにすることが、がん克服への近道であることを示してゐると思われます。

A traditional Japanese building with a dark, multi-tiered roof, likely a temple or shrine, situated on a hillside overlooking a city.

5

化学の道から美の世界へ

宗廣 陽助

(昭和四十年卒)

私は渡辺明教室で谷口吉弘氏とは外国語で同クラスでした。卒業後は親しい先輩の助手をしてその間に父親の始めた「手織り紬作り」の仕事が自分に向いているかどうかゆつくり考えれば良いと軽い気持ちでいましたが四回生になる直前、父が病に倒れ兵糧を断たれてしましました。止むなく渡辺先生に相談して週三日間、鞍馬口の京都市染織試験場に通い「植物染料」をテーマにして何とかまとめ卒業したものです。その後四十数年間人間国宝、芹沢鉢介先生紬作り(主に着物)に明け暮れて現在に至っています。その後、半ば回復した父が新しく「紬縫織り、紬織り」と言う分野で初の人間国宝にまでなりましたが、私にはその才能、血の出るような努力共、遠く及ばないことを自覚しております。それで何とか自分自身の道を見つけねばならないと考えた末、芸術品でなく実際身につける普段着をしかもすべて自身の手で作ることになりました。この事



は手作業、肉体労働を伴うので大変でしたがが今考えますとこの作業は誰にも頼れない道を間違えることなく今日まで何とかやつて来られました。もし私の残した仕事に価値があるとするならば四十数年間すべて自分の手を通し五万点以上の染織作品を世に出したことです。この記録は誰にも破られないと秘かに自負しております。一方そんな間少し余裕ができて来ましたので主に東南アジア各地を廻り「私に作り得ないような生活をしているのだろう」、「どんな生活をしていたならあるのような美しいものを作り出せるのだろうか」と言う点をテーマに歩き続け、その際手本になる主に古い染色品を持帰り仕事の参考にしました。現代の作品では型絵染の人間国宝、芹沢鉢介先生以上のデザイナー、美的感覚の持主は存在し得ないと悟り先生の作品も併せて収集してきました。数年前この新旧の私の収集品が新聞社の目に止まり二年前から今年六月にかけ岐阜、島根、東京、愛知、京都の公立美術館で約二ヶ月づつ展示されることになりましたが、その間全国の多くの芹沢ファン、立命の同級生にも目にしていただけ特に京都文化博物館では二万数千人の入館者を迎えて嬉しいと同時に私の第二の仕事の使命も一区切りつけたところです。一つ言えることは化学の解答は真実一つであるのに對して美術の答えは受取り方によつて必ずしも一つでないことに難しさと面白さがあることを最近ようやく解るようになりまし

た。現在七十才を迎えまだ少しロスタイルがありますのでこの辺を追求して、第三の生き甲斐にすべき充電中であります。

実りの多い秋を 迎えるために

谷口 彰

(昭和四十五年卒)



団塊の世代

真っただ中で育つた我々の殆んどが定年延長期間も終え、これから人生をどう生きてゆくのか思考錯誤の人も結構多そうである。私もその一人であるが、結構多そうである。私もその一人であるが、機会ある毎に『毎日どうしているの』と聞くのが半ば習慣になつてゐる。返つて来る答えの殆んどが、家庭菜園、老人大学、国内外旅行でありそれでも時間を持て余しているという。中には趣味で始めたワイン造り、木彫り等がプロに近い腕前になつてゐる者もいた。私は以下を重点に忙しい毎日を送つてゐる。

週刊朝日の名編集長、だつた扇谷正造は『一度怒一老一笑一少』の言を好んだそうだ。一度怒れば一つ老い、一度笑えば一つ若返る。これからは気持ちだけでもいつまでも若くありたいと思つてゐる。右の言葉を座右の銘に。

一、同窓会幹事、自治会役員等普段なら手を挙げないであろう役を難なく引き受けて

木村碩志 前会長を偲んで

松岡 彦次（昭和二十七年卒）



五月十日、木村
碩志君の奥様より
直接の電話があり
木村君の死を知ら
された。信じられ
ない一瞬であった。

去る二月十九日、
冒頭の奥様より、ご連絡を頂いた夜は、
彼との数々の思い出が目に浮かび、正直な
立命OBの写真展に招かれ、その後、級友
五人で食事を共に楽しんだ。その時の話題
の中に「人間八十を過ぎれば何處かに故障
が出て来るものである」それが、このよう
な形で現実になるとは実に残念である。

かえりみれば彼とは、今から六十五年前

の昭和二十二年、戦争の混乱が残る中、等

持院の立命館専門学校理学科化学科に入学、

昭和二十五年卒業、同年、新設された立命

館大学理工学部化学科三回生に編入、昭和

二十七年卒業迄の五年間、学生生活を共に

した仲である。

彼は卒業後、更に京都大学薬学部大学院

へ進み、有名な刈米先生に師事し、薬学博

士号を取得したうえで、彼の祖父が創業さ

れた木村製薬（現アース製薬）に戻り同社

の研究開発の責任者として取り組み、種々

の実績をあげられたのである。

なかでも有名な『こきぶりホイホイ』の



商品化に当たつても、ごきぶりの種類、習
性生態等を徹底的に研究調査し、それを基
に捕獲器を作りあげ、国内はもとより、海
外にまで輸出され、マスコミにも再三、取
りあげられる人気商品となつたのである。
冒頭の奥様より、ご連絡を頂いた夜は、
彼との数々の思い出が目に浮かび、正直な
かなか寝付けなかつたのを覚えている。

学生時代、彼の京都の家に頻繁にお邪魔

をし歓待して頂いたこと、更に、夏休みに

は赤穂海岸の別荘に長期滞在させて頂いた

こと、又、北アルプス登山で危険を克服し、

一緒に頑張つたことなど鮮明に浮かんだ。

その他にも、歌舞伎鑑賞、能楽（謡曲、仕舞、

小鼓）の稽古も一緒にさせて頂いたのも彼

との思い出の一頁である。

結びに、木村碩志君は忙しい中、母校応

謝に堪えない。最後の赤穂の斎場では、沢

山の有縁の人々に見送られ旅立たれたので

ある。心より、ご冥福をお祈りいたします。

五月十日、木村
碩志君の奥様より
直接の電話があり
木村君の死を知ら
された。信じられ
ない一瞬であった。

冒頭の奥様より、ご連絡を頂いた夜は、
彼との数々の思い出が目に浮かび、正直な
かなか寝付けなかつたのを覚えている。

学生時代、彼の京都の家に頻繁にお邪魔

をし歓待して頂いたこと、更に、夏休みに

は赤穂海岸の別荘に長期滞在させて頂いた

こと、又、北アルプス登山で危険を克服し、

一緒に頑張つたことなど鮮明に浮かんだ。

物質や現象は異なつていても、先生の説明

を聞くと、もとは同じところからきているの

だと思ったことが何度もありました。そのよ

うに量子論など基礎を大切にされました。実

験では、人のデータで判断するより、とにかく自分で測つてみるように言われました。

先生は第五高等学校、京大理学部物理化

学研究室のご出身で、愛媛大学などを経

て、一九六四年十月に本学理工学部教授に

就任し、無機化学研究室を担当されました。

一九七八年度から二年間の理工学部長をは

じめ、理工学研究所長、大学協議員、学部

主事など要職を務められました。一九九一

年の三月に定年退職され、四月に本学名譽

教授になられました。

が、一方では衣笠の旧六号館四階の東向き
の研究室に先生が今でも居られるような気
がすることがあります。

先生は花がお好きだったのでは。無機化
学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ
りました。卒業式の日には決まつて研究室
メンバーや大学の西門を出て龍安寺に連れ
て行つていただきました。境内の遅咲きの
梅や開花間近の桜に目を細めておられたも
のと想います。お宅に近い平等院の阿字池
の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌
「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相
當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

うか。

本学着任以前はカルコゲンガラス他を扱

いました。コバルトイオンによる澄

んだ青紫色の、先生のご自慢のバイコール

ガラスが残っています。一九七〇年頃にイ

リノイ大学に留学された時の実験データを

先生は退職一年前ごろ英語論文にまとめら

れました。それは、一九九一年の米国化学会の The Journal of Physical Chemistry

に、アルカリホウ酸ガラス中のコバルトイ

オンの光吸収スペクトルに対する圧力効果

の内容で掲載されています。

先生は花がお好きだったのでは。無機化

学研究室で吉野へお花見に行つたことがあ

りました。卒業式の日には決まつて研究室

メンバーを大学の西門を出て龍安寺に連れ

て行つていただきました。境内の遅咲きの

梅や開花間近の桜に目を細めておられたも

のと想います。お宅に近い平等院の阿字池

の藤の花が満開で美しいと研究室の同窓会誌

「ぎやまん」に書かれています。

松田二郎先生、先生は反骨精神を内に秘めた相

當な紳士でした、よろしいでしょ

温泉研究会の「碩学の長老」、故木村碩志氏

奥野年秀（昭和三十七年卒）



温泉研究
会は平成

二十二年秋
秀藏氏が創立されたアース製薬で専門知識
した、発起
人は木村碩
功労賞や兵庫県薬事協会賞等授与され、社
会に尽くされた功績が賞賛されました。な

アース製薬常務取締役、昭和二十七年卒）
と石井猛氏（岡山理科大学名誉教授、昭
和三十一年卒）であり、第一回総会（有馬
温泉）、第二回総会（京都本能寺会館）で
開催されてきましたが、本年五月十日に木
村会長が急死されました。ここに謹んでお
悔やみ申し上げます。木村氏は旧応化会会
長や兵庫県立命館大学OB会幹事や趣味の
分野でも大学の写真研究会創設など校友会
のお世話をされてきました。又、会社では、
開発本部長として「こきぶりホイホ
イ」等製品の開発に専念され、当社の研究
所設置や発展に尽力されました。兵庫県赤
穂市の地元では、青年会議所の創設に奔走
され、初代理事長に就任されています。木
村氏は立命館大学理工学部の修士課程を修

了された後に京都大学薬学部の博士課程や
国立衛生試験所にて研究に従事されて京都
大学から薬学博士を授与され、祖父の木村
秀藏氏が創立されたアース製薬で専門知識
や研究成果を結実されました。兵庫県知事
功労賞や兵庫県薬事協会賞等授与され、社
会に尽くされた功績が賞賛されました。な

お、今年の計画では、五月中旬に第三回総会（箱根湯本温泉）が開催される予定でした。しかし、木村会長の訃報にて、総会が延期になり、企画立案して戴いた戸谷順造

氏（昭和三十九年卒）も六月八日に急死され、この計画は白紙になりました。六月十三日に京都タワーホテルで開催された臨時の幹事会では、会長、副会長の人事や会則改正や新幹事の紹介が行われました。現在、立命館卒業に高い誇りをもつて早稲田大

の立命館学祖、西園寺公望公の墓を紹介の為同行した節に、平櫛田中公の墓にも立ち寄った次第ですが、田中の百才のメッセー

ジが表題の「いまやらねばいつできる」と自らの志を公表したことと同行の「デザイナーは甚だしく感動し、「西園寺公望の『学

然後足らざるを知る』と同様故人の『座右の銘』を業務や人生に生かすべきこと。」と

発言されていましたことを紹介させていただき

ます。次回は岡山大学客員教授（理学博士・国分寺在住）をご案内し意見交換することにしております。

支部だより

「いまやらねばいつできる」

（平櫛田中彫刻家）

関東支部長 仲宗根宗督（昭和三十五年卒）



「志をもつ
た堅心」

日本古代史、二十一年度は西田哲学を受講

た堅心 学位取得修了、本年度は現代社会学（韓國

知友の日 と北朝鮮と日本の関係）を受講中の学生で

立のデザインす。早稲田大学の学友を含め、受講中の諸

ナード氏を都 氏の「立命館」への評価は高く、期待も高

立多磨靈園

まるばかりです。

立命館卒業に高い誇りをもつて早稲田大

学に通学している現状です。

立命館大学東京校友会副会長にも就任し

ております。立命化友会関東支部総会も早期開催を期待しておりますが準備中で申しわけなく、思っている次第です。

悲報

当支部副支部長として永年在任され、温泉研究会にも多大な貢献をされておられた戸谷順造氏が先般急逝されました。心からお悔やみ申し上げて、近況報告といたします。

立命館への期待と役割

私は平成二十年から早稲田大学オーブンカレッジを受講しており、平成二十年度は、

企画運営委員会報告

委員長 伴 野 清

(昭和四十二年卒)

日頃は皆様方の交流と親睦を図るための各種企画の運営にご協力をいただき有難うございます。

さて、今年度も幹事の方々にお世話をいただき、「ゴルフ懇親会」、「ハイキング」、「温泉研究会」および「釣り天狗クラブ」の活動が繰り広げられました。また、二月には恒例の「健康セミナー」を開催することができました。

ご周知のように本年四月からは、新たに立命化友会としての企画運営になつておりますが、それぞれの開催案内は、引き続き、事務局からお送りしておりますので、参加ご希望の方は、お気軽に事務局までご一報下さい。

第六回健康セミナーの開催

平成二十四年二月二十六日（日）

第二十七回 ゴルフ懇親会

平成二十三年十月二十六日（水）

幹事の三上正勝様・西村定様にお世話い

京都タワーホテルにおいて「白血病からがんについて考える」と題し、立命館大学・

生命科学部・生命医学科の堀利行先生に

ご講演いただきました。

人口の高齢化とともに死因に占めるがん

の割合が増えている実情に鑑み、がんはどういう病気なのか、どのように発症するのかについて、血液のがんである白血病を例にとつて最近のトピックスを紹介していました。

今日では白血病を起こすほとんどすべての原因が、細胞の増殖や生死や分化を調節する遺伝子の変化であることが分かっています。また、最近では白血病の本体が、白血病細胞の中に少数含まれる白血病幹細胞であることが示され、それ以外の白血病細胞は自然に死んでいく細胞であり、恐れるに足らないと言ふことです。

堀先生は、医師として、また、日本内科学会や日本血液学会等の専門医としてご活躍の立場から、特異性の高い治療薬の状況、がんの新しい診断法、治療法の可能性についても詳しくお話ししていただき、興味深く聴講させていただきました（詳細は本号五ページ）。

第二十三回 立命化友会ハイキング

平成二十三年十一月二十七日（日）

木全豊和様に幹事をお願いし、「木津川上流から笠置山」ハイキングが開催されました。

参加者七名、加茂駅に集合し、大河原より飛鳥路～布目川～笠置山～笠置温泉の10kmのコースを散策し、京都で一番と言われることです。また、最近では白血病の笠置温泉では、入浴と懇親会で大いに盛り上がりました。

次回開催の候補地について、セミナーでは石井猛様、奥野年秀様、木村碩志様が講演を

その後、懇親会が催され、料理を楽しみつつ交流を図りました。

第二十八回 ゴルフ懇親会

平成二十四年三月三十日（金）

京都市のホテル本能寺会館で総会・セミナー・懇親会が開催され、十四名の方々にご参加いただきました。総会では役員の承認や

温泉研究会第一回総会

平成二十三年十一月十六日（金）



第28回 ゴルフ懇親会

三上正勝様・西村定様にお世話いただき、宇治カントリークラブで開催され、三上正勝様が優勝されました。おめでとうございます。

今回は参加者六名と少し寂しくなります。今日は参加者六名と少し寂しくなりましたが、“続けることに意義あり”との言葉に励まされて、和氣あいあいとラウンドできました。

次回は十月二十五日（木）に「日野ゴルフ俱楽部」で開催の予定です。



温泉研究会 第2回総会

第二十四回 立命化友会ハイキング

平成二十四年四月二十九日（日）



第24回 立命化友会ハイキング

温泉研究会臨時幹事会

平成二十四年六月十一日（月）



第3回 釣り天狗クラブ

木全豊和様に幹事をお願いし、奈良・桜井駅からの「山の辺の道」ハイキングが開催されました。当日は快晴に恵まれ、参加者は十二名、金屋の石仏→大神神社→狭井神社→桧原神社→景行天皇陵→崇神天皇陵→長岳寺→黒塚古墳のルートで、9kmを四時間かけて心地よい清風でウォーキング、懇親会で楽しく打ち上げができました。

次回は十一月に「南山の辺の道」を予定しています。

第三回 釣り天狗クラブ

平成二十四年五月十九日（土）

目片秀明様にお世話になり、泉南郡岬町小島沖で船釣り後、懇親会が開催されました。参加者六名の成果は、ガシラ、チャリコ、キスなど二十二匹と豪快、お待ちかねの懇親会は、豪華な船盛りで盛り上りました。魚釣りが初めての方も次回はお気軽にぜひご参加下さい。

会長としてご活躍された木村碩志様が、五月十日に突然ご他界されました。心からのご冥福をお祈りいたします。
京都タワーホテルにて臨時の幹事会が開催され、新会長には奥野年秀様が選出され、規約改正を始め、次回開催等について話し合われました。

物故者

平成23年9月1日から平成24年8月31日の間に、ご逝去の連絡を頂いた方々です。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

近江源二郎	(昭18年卒)	漆原 昭雄	(昭26年卒)
安岸 俊男	(昭19年卒)	山田吉之介	(昭26年卒)
田中 丈夫	(昭19年卒)	野田 芳広	(昭26年卒)
中大路宏造	(昭20年卒)	木村 碩志	(昭27年卒)
戸田耕太郎	(昭20年卒)	根来 寛	(昭27年卒)
長谷川金市	(昭20年卒)	中川 三三	(昭28年卒)
中山 俊行	(昭20年卒)	福井 喜好	(昭29年卒)
大八木一光	(昭20年卒)	大溝 稔	(昭29年卒)
寺本 博	(昭22年卒)	田中 敬三	(昭30年卒)
石田 嘉陸	(昭22年卒)	大西 浩三	(昭30年卒)
伊藤喜八郎	(昭22年卒)	梶原 俊之	(昭31年卒)
並河賢一郎	(昭22年卒)	中部 賀正	(昭32年卒)
藤原 憲一	(昭22年卒)	都築 達司	(昭32年卒)
畠 実	(昭22年卒)	境 稔弘	(昭33年卒)
野々口善隆	(昭22年卒)	山口 雅之	(昭34年卒)
三浦 庄平	(昭22年卒)	榎本 梁雄	(昭36年卒)
内貴 信夫	(昭22年卒)	扇 孝三朗	(昭38年卒)
今井 昭三	(昭23年卒)	漆崎 雅巳	(昭38年卒)
及川 英夫	(昭23年卒)	西口 智	(昭38年卒)
吉田 源三	(昭23年卒)	戸谷 順造	(昭39年卒)
奥村 孝明	(昭23年卒)	池田 利和	(昭40年卒)
田中 宏和	(昭23年卒)	伊藤 家寿	(昭42年卒)
玉井 清	(昭23年卒)	三木 正樹	(昭55年卒)
佐々木重遠	(昭24年卒)	伊吹 和泰	(昭59年卒)
藤井 緑郎	(昭24年卒)	三原 弘次	(昭60年卒)
野々村 昇	(昭24年卒)	伊吹 和泰	(昭59年卒)
櫻井清二郎	(昭25年卒)	三原 弘次	(昭60年卒)
土井 友一	(平7年卒)	伊吹 和泰	(昭59年卒)
	(敬称略)	伊吹 和泰	(昭60年卒)

新任の先生から一言

石水 耕先生
いしみず たけし



片山 真祥先生
かたやま みさき



梅川 碧里先生
うめかわ みどり



江田 志磨先生
えだ しま



本年四月より生命科学部生物工学科に准教授として着任いたしました。専門は、タンパク質、糖質を扱う生化学です。植物糖鎖（細胞壁多糖、糖タンパク質糖鎖）の生合成・分解の分子機構を解明する研究を行っています。生命科学部の発展に貢献できるよう、教育・研究に一層精進を致す所存です。皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴 一九九三年 大阪大学理学部 化学科卒業。一九九八年 大阪大学 大学院理学研究科有機化学専攻修了 博士（理学）。一九九八年 日本学術振興会特別研究員（大阪大学 フェロー）。二〇一二年四月 立命館大学 生命科学部応用化学科 助教。

二〇〇九年 同講師。二〇一二年本学着任。

本年四月より生命科学部応用化学科助教として着任いたしました。現在はX線吸収分光を利用した電池材料の解析をテーマとして研究を進めています。本学SRセンターをはじめ大型放射光施設・次世代光源を利用した最先端測定技術の開発とその応用に興味を持っており、研究・教育を通じて応用化学科に貢献していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

略歴 二〇〇七年九月 立命館大学 大学院理工学研究科総合理工学専攻 博士課程後期課程修了 博士（理学）。二〇〇七年一〇月 立命館大学総合理工学研究機構 ポストドクトラル フェロー。二〇一二年四月 立命館大学 生命科学部応用化学科 助教。

本年四月に生命科学部助教に着任致しました。専門分野は、酵素学、糖鎖生物学です。今後は、酵母を用いた糖質代謝関連酵素とその生理機能に関する研究を中心に進めていきたいと考えております。できるだけ多くの先生方、職員の方々、学生との出会い・関わりを大切に、研究と教育に頑張っていきたいと考えておりますので、皆様のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

略歴 二〇一〇年三月 京都大学 大学院生命科学研究科 博士課程修了、博士（生命科学）。二〇一〇年四月～二〇一二年三月 米国ミシガン大学ライフサイエンスインスティチュート博士研究員。二〇一二年四月～立命館大学生命科学部生物工学科 助教。

本年四月に生命科学部生物工学科の助教に着任致しました。専門は微生物の分子遺伝学です。学位取得後は動物病原細菌の薬剤耐性機構の研究をしていました。現在は、環境細菌や植物共生細菌における薬剤輸送タンパク質の機能について研究を進めています。至らない点も多くあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

略歴 二〇〇〇年三月 筑波大学 大学院博士課程農学研究科終了、博士（学術）。二〇〇〇年四月 東海大学 医学部 博士研究員。二〇〇五年九月 東北大学大学院生命科学研究科 助教。二〇一〇年九月 東北大学 大学院生命科学研究科 産学官連携研究員。二〇一二年四月 本学着任。

土屋
つちや

雄揮先生
ゆうき



工藤
くどう
雄博先生
かつのり



川崎
かわさき
崇先生
たかし



波多野
はたの
亮先生
りょう



本年四月より、生命科学部助手として着任致しました。専門は微生物生態学です。

水中の石などの表面で微生物が形成している共同体「バイオフィルム」の諸性質や機能を研究しています。

本学の教育のお役に立てるよう精一杯努力する所存です。皆様のご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

本年七月より生命科学部生命医学科助手として着任させていただきました。専門分野は食品機能性です。生命医学科では食品の内容が少ないので、「医食同源」、「医食同源」の観点から様々なお力添えができると存じます。これまでに培つてきた様々な地域の様々な経験を学生たちに伝えていくよう邁進していく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年の四月に薬学部の助教として着任致しました。専門分野は、微生物が生産する生理活性物質の形成に関与する酵素・遺伝子の解析です。

以前、私は東京理科大学薬学部において、研究と教育に携わってきました。その経験を活かし本学での研究と教育に貢献できればと考えております。皆様のご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

本年四月より薬学部助教として着任致しました。腎臓におけるトランスポーターの生理的な役割の解析を専門に研究を行っています。一昨年度より本学での教育・研究に携わらせて頂いておりますが、改めて教員として関わっていくこととなり、より一層の責任感をもつて取り組んでいきたいと思っております。皆様のご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

略歴 二〇一二年九月 立命館大学
大学院理工学研究科総合理工学専攻博士後期課程修了、博士（理学）。
二〇一一年九月～二〇一二年三月
日本学術振興会特別研究員（DC2
からP.Dに資格変更）。二〇一二年
四月 立命館大学生命科学部 助手
年七月 本学着任。

略歴 二〇〇六年三月 酪農学園大
学大学院酪農学研究科食品栄養科
学専攻修了、博士（食品栄養科学）。
二〇〇六年四月 北海道名寄農業高
等学校（現 名寄産業高等学校）期
限付き教員。
二〇〇七年四月 沖縄工業高等専門
学校生物資源工学科教員。二〇一二
年七月 本学着任。

略歴 二〇〇五年三月 富山県立大
学大学院 博士後期課程修了、博
士（医学）。二〇〇五年四月 東京
理科大学薬学部嘱託助手・助教。
二〇一〇年四月 京都大学生存圏研
究所 研究員。二〇一二年四月 神
戸大学大学院農学研究科 研究員。
二〇一二年四月 本学薬学部に着任。

略歴 二〇〇二年 東北大学薬学部
卒業、薬剤師免許取得。二〇〇八年
東北大学大学院医学系研究科博士課
程修了 博士（医学）。二〇〇八年
大阪大学大学院医学系研究科 特任
研究員。二〇一〇年 立命館大学藥
学部 助手。二〇一一年 日本學術
振興会特別研究員（P.D.）。

立命化友会名誉会員

(敬称略)

立命化友会役員名簿

(敬称略)

顧問		常任幹事		副会長		大原八十八	
矢野成和	森崎佳博	岸上原	要正巳	北谷口	伴吉弘	田村北尾	大原八十八
(平12年)	(平9年)	(34年)	(25年)	(40年)	(39年)	(31年)	(30年)
山田目片	小林田口	木越城戸	松本篠原	中村酒井	松田池田	西原豊和	田村義孝
(平4年)	(平2年)	(46年)	(46年)	(44年)	(42年)	(40年)	(38年)
久人秀明	康人肇	木越啓志	松本浩一	尚武	十四夫	豊和	吉弘
(平5年着任)	(62年)	(59年)	(51年)	(41年)	(38年)	(40年)	(40年)
久雄	人	久人	白井総	正憲	十四夫	尚武	大原八十八
(平4年)			(56年)	(46年)	(41年)	(41年)	(30年)
成和	森崎	目片	前辻	昭	一郎	一郎	田村弘三郎
(平12年)	佳博	目片	前辻	啓志	昌彦	尚武	(31年)
				総	(42年)	(41年)	
				浩一	(43年)	(41年)	
				正憲	(46年)	(41年)	
				俊雄	(46年)	(41年)	
				芳夫	(44年)	(41年)	
				長政	(43年)	(41年)	
				酒井	(42年)	(41年)	
				篠原	(43年)	(41年)	
				木越	(46年)	(41年)	
				城戸	(46年)	(41年)	
				松本	(51年)	(41年)	
				前川	(52年)	(41年)	
				白井	(56年)	(41年)	
				前辻	(59年)	(41年)	
				田口	(61年)	(41年)	
				目片	(62年)	(41年)	
				矢野	(平4年)	(平5年着任)	

	会計監査	会計幹事代表	庶務幹事代表	学内幹事
長野	正道	（平15年着任）	（平15年着任）	谷口
香山	彰朗	（31年）	（43年）	荒木
澤村	精治	（49年）	（47年）	香山
白石	晴樹	（49年）	（47年）	澤村
藤田	典久	（51年）	（51年）	長野
岡田	豊	（52年）	（52年）	白石
小島	一男	（54年）	（54年）	藤田
花崎	知則	（平1年）	（平1年）	小島
北原	稔	（院62年）	（院62年）	花崎
久保	和彦	（平5年着任）	（平5年着任）	北原
玉置	純	（平7年着任）	（平7年着任）	久保
若山	信孝	（平7年着任）	（平7年着任）	玉置
前田	均	（平7年着任）	（平7年着任）	若山
高木	一好	（平11年着任）	（平11年着任）	前田
笠原	守	（平12年着任）	（平12年着任）	高木
堤	大光	（平16年着任）	（平16年着任）	笠原
今中	忠行	（平20年着任）	（平20年着任）	堤
稻田	賢洋	（平17年着任）	（平17年着任）	今中
三原	康宏	（平21年着任）	（平21年着任）	稻田
天野	晃	（平21年着任）	（平21年着任）	三原
菊地	卓也	（平15年着任）	（平15年着任）	天野
高橋	武司	（平16年着任）	（平16年着任）	菊地
野間	昭典	（平20年着任）	（平20年着任）	高橋
寺内	一姫	（平21年着任）	（平21年着任）	野間
里見	潤	（昭63年着任）	（平19年着任）	寺内
下妻晃二郎	（平19年着任）	（平21年着任）	（平16年着任）	里見
伊藤	将弘	（平16年着任）	（平20年着任）	下妻晃二郎

二部化学科												新制大学																
41年	40年	39年	38年	37年	36年	34年	33年	32年	31年	30年	29年	27年	42年	41年	38年	37年	36年	34年	33年	32年	30年	29年						
西原 騎一郎	東正弘	木豊和	金川義孝	松本幹生	松尾篤治	奥野年秀	大谷芳亨	近藤照雄	佐々木豊	花澤明	磯野(田村)喜	岡本朗	香山彰朗	八木本	松岡彥次	岩崎弘通	加納修	天田健治	藤井博	寺田卓二	山本好春	上原正巳	池田茂	廣瀬榮三郎	片山治市郎	東龍夫	八木永治	九鬼敏隆

喜美子

平 1 年	63 年	62 年	61 年	60 年	59 年	58 年	57 年	56 年	55 年	54 年	53 年	52 年	51 年	49 年	48 年	47 年	46 年	45 年	44 年	43 年	42 年						
大山 栗津 良隆	坂根 田口 正恭	目片 菊池 康人	長谷川圭一	野口 英剛	北河 勝隆	片山 英次	安田 信之	松田 総	坂本 隆	河村 眞也	川澤 吉雄	前川 昭	松本 浩一	澤村 精治	寺石 雅和	白石 晴樹	宮地 淳	木越 俊雄	城戸 正憲	村上 俊男	長井 広次	篠原 省二	伊藤 博之				
桐村 中井 武裕	中村 俊博	目片 秀明	北口 均	尼川 雅章	草野 富雄	宮武 智弘	村山 公一	磯貝 秀人	岡部 直樹	武田 周子	山田 佳博	岩井 啓能	川中さ やか	小池 竜一	平本 豪志	山田 修司	山本 幸子	宇野健 二朗	松宮 芳樹	矢野 成和	五十嵐 亮介	笠橋福 太郎	松瀬 琢磨	西田 悠里	原田 雅央	水戸部 敬子	加瀬澤 邦浩

16 年	15 年	14 年	13 年	12 年	11 年	10 年	9 年	8 年	7 年	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年											
加藤 豊	水戸部 敬子	谷口 直哉	網本恵美子	廣瀬 琢磨	五十嵐 亮介	矢野 成和	宇野健 二朗	松宮 芳樹	岸 要(25年)	金川 義孝 (39年)	木全 豊和 (40年)	木越 俊雄 (46年)	白井 総 (56年)	松本 浩一 (51年)	前田 大光 (平16年着任)	小林 久人 (平2年)	小林 久人 (平4年)	白井 久人 (平2年)	中村 尚武 (41年)	伴野 清 (42年)	野田 濱口 直之	空閑 健透	桐村 中村 俊博	小林 亮太	志茂 欣子

ニュース編集委員会	
委員長	金川 義孝 (39年)
副委員長	加藤 稔 (院62年)
委員員	岸 要(25年)
委員員	岸 要(25年)

笠原
賢洋
(平17年着任)
高木
一好
(平12年着任)
玉置
純
(平8年着任)
田口
肇
(62年)
目片
康人
(61年)
小島
一男
(52年)
藤田
典久
(51年)
城戸
正憲
(46年)
奥野
年秀
(37年)
坂根
田口
(61年)
高木
一好
(平12年着任)
栗津
良隆

編集後記

昨年の秋、生命科学部同窓会設立総会が開催され「立命化友会」が誕生しました。そして立命化友会ニュース第一号の発刊を迎え、今後生命科学部の将来構想や生命体の神秘等の記事をお届けしたいと思います。

今年はロンドンオリンピックが開催され、我が国は三十八個のメダルを獲得しました。特に、女子の卓球・バレーボール・サッカー等の活躍は目覚ましい



ものでした。又、世紀の金環日食、東京スカイツリー開業等が感動を与えてくれました。一方欧州財政危機、原発事故、決められない政治等で景気は低迷多事多難の年でした。

「立命化友会」会員特に若年層の皆様、同好会（ゴルフ・ハイキング・釣りクラブ・温泉研究会）や各支部活動に奮つて参加し活動を一層盛り上げて下さい。（金川）

会員の 磯島文雄氏（八十二歳）が 瑞宝単光章を受章

平成二十三年秋、磯島氏が叙勲受章をされました。おめでとうございます。磯島氏は昭和二十八年卒業後、警察鑑識課で覚醒剤や毒物の化学物質の微量分析に尽力されました。

故者の記事で、高田満信様（昭和四十六年卒）のお名前を誤って掲載してしまいました。高田様、並びに関係者の皆様には、大変ご迷惑をお掛け致しました。ここにお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

お詫び

応化会ニュース第二十九号の物

応化会 2011年度(平成23年度)事業報告

I. 諸事業

1) 2011年3月卒業生名簿作成	2011年 5月 ~
2) 応化会ニュース(第29号)発行	2011年 11月 1日
3) 全会員への通信	2011年 11月
4) ゴルフ懇親会の開催	
・第27回	2011年 10月 26日
・第28回	2012年 3月 30日
5) 応化会ハイキングの開催	
・第22回	2011年 5月 22日
・第23回	2011年 11月 27日
6) 釣り天狗クラブ	
・第3回	天候により中止(2011年11月19日)
7) 温泉研究会	
・幹事会	2011年 6月 23日
・第2回 総会&セミナー	2011年 12月 16~17日
8) 健康セミナー	
・第6回	2012年 2月 26日

II. 諸会議

幹事会	
・第1回	2011年 7月 24日
・第2回	2012年 2月 26日

企画運営委員会

応化会ニュース編集委員会	
・第1回	2011年 6月 25日
・第2回	2011年 9月 11日

III. 支部活動(関東支部、東海支部、中国・四国支部)

関東支部幹事会	2011年 11月 24日
---------	---------------

立命化友会 2012年度(平成24年度)事業計画

I. 諸事業

1) 2012年3月卒業生名簿作成	2012年 5月 ~
2) 在校生ソフトボール大会	未定
3) ニュース発行	2012年 11月 1日
4) 全会員への通信	2012年 11月
5) 卒業・修了パーティー	2013年 3月 20日
6) ゴルフ懇親会の開催	
・第29回	2012年 10月 25日
・第30回	未定
7) 立命化友会ハイキングの開催	
・第24回	2012年 4月 29日
・第25回	2012年 11月 25日
8) 釣り天狗クラブ	
・第3回	2012年 5月 19日
・第4回	未定
9) 温泉研究会	
・臨時幹事会	2012年 6月 11日
・第3回	未定
10) 特別企画セミナー	
	2013年 2月(予定)

II. 諸会議

幹事会	
・第1回	2012年 6月 17日
・第2回	未定
企画運営委員会	
ニュース編集委員会	未定
・第1回	2012年 7月 1日
・第2回	2012年 9月 15日

III. 支部活動

(関東支部、東海支部、中国・四国支部)	未定
---------------------	----

2011年度(平成23年度)応化会決算

一般会計

(単位:円)		
〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	3,691,705	3,691,705
会費(一般)	50,000	50,000
会費(学生)	0	0
寄付金	10,000	14,000
雑収入	5,000	384
合計	3,756,705	3,756,089
〈支出の部〉	予算額	執行額
総会開催費	0	0
事業等補助金	200,000	27,280
地域別活動推進費	100,000	0
会議費	150,000	70,227
印刷費	400,000	397,024
郵送費	800,000	553,865
人件費	250,000	236,000
事務局費	25,000	57,165
雑費	100,000	0
拠出金(特別会計へ)	0	0
拠出金(連絡協議会へ)	0	0
在学生活動援助費	0	0
振込手数料	100,000	5,220
予備費	1,631,705	0
合計	3,756,705	1,346,781
次年度繰越金(立命化友会予算へ)		2,409,308

特別会計

(単位:円)		
〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	4,635,778	4,635,778
拠出金	0	0
雑収入	1,000	0
合計	4,636,778	4,635,778
〈支出の部〉	予算額	執行額
人件費	250,000	186,000
事務局費	100,000	155,609
予備費	4,286,778	0
合計	4,636,778	341,609
次年度繰越金(応化会基金(仮称)へ)		4,294,169

2011年度(平成23年度)立命化友会決算

(単位:円)		
〈収入の部〉	予算額	執行額
前年度繰越金	0	0
会費(一般)	0	6,000
会費(学生)	3,150,000	3,150,000
寄付金	10,000	0
雑収入	1,000	20,022
合計	3,161,000	3,176,022
〈支出の部〉	予算額	執行額
総会開催費	1,200,000	1,159,918
事業等補助金	50,000	61,025
地域別活動推進費	150,000	0
会議費	50,000	23,677
印刷費	100,000	3,316
郵送費	500,000	6,960
人件費	500,000	318,000
事務局費	125,000	240,229
雑費	100,000	0
拠出金(連絡協議会へ)	150,000	150,000
在学生活動援助費	300,000	300,000
振込手数料	100,000	1,015
予備費	136,000	0
合計	3,161,000	2,264,140
次年度繰越金		911,882

2012年度(平成24年度)立命化友会予算

(単位:円)		
一般会計	予算額	
〈収入の部〉	予算額	
前年度繰越金	911,882	
応化会2011年度繰越金	2,409,308	
会費(学生)	3,000,000	
寄付金	10,000	
雑収入	1,000	
合計	6,332,190	
〈支出の部〉	予算額	
総会開催費	0	
事業等補助金	150,000	
地域別活動推進費	250,000	
会議費	150,000	
印刷費	500,000	
郵送費	700,000	
人件費	1,000,000	
事務局費	250,000	
雑費	50,000	
拠出金(連絡協議会へ)	150,000	
在学生活動援助費	300,000	
振込手数料	10,000	
予備費	2,822,190	
合計	6,332,190	
応化会基金(仮称)	4,294,169	